

QREC NewsLetter

Jun 25, 2024

QREC工房を活用する2サークルのメンバーにインタビュー！



QRECプレミアムメンバーズ「九州大学鳥人間チーム」
工学部4年 一宮 亨伍さん

Q：工房で作成したものは何に使用されていますか？

A：3Dプリンターでは、機体を操縦するレバーの試作を印刷しています。
レーザー加工機では、操縦桿の入力を読み取るための基盤を機体に固定するためのマウント（安定して設置するための場所）を作成しています。

鳥人間チームは、琵琶湖で開催されている鳥人間コンテストに向けて滑空機を製作しているサークルです！

Q：レーザー加工機は調整が難しいと聞いたのですがコツはありますか？

A：僕はアクリルやMDFという板しか使わないのですが、一部の人はバルサシートという柔らかい木材をレーザー加工機で切っています。デフォルトの設定がないので、出力を変えてみたりして、良い設定を探したりしてます。厚みによって設定が変わるから調整が難しいです。



Q：鳥人間チームの今年の目標は？

A：飛行距離（新記録）が優勝ですね。僕的には距離かな。500メートルくらい（滑空機部門）。
これまでで1番記録が出ているのが、530メートルで、その次が500ちょっとくらいなので、500メートルを出したい。そしたらその年優勝できると思います。

PLANET-Qは、日々、「放課後は宇宙開発を。」をテーマに宇宙関係のあらゆることに関しての活動を行っています！



QRECプレミアムメンバーズ「PLANET-Q」
工学部2年 橋川 莉奈さん

Q：工房の利用目的を教えてください。

A：ハイブリッドロケットやスペースバルーン、CanSatなどのプロジェクトをしていて、ロケットの場合は、ロケットのノーズをつくる時の型や、その他の細かな部品を印刷しています。スペースバルーンでは、分離機構（バルーンとその下部に接続された物を任意のタイミングで切り離す装置）の部品を、CanSatでは、タイヤの印刷のために3Dプリンターを利用しています。3つのプロジェクトに参加していて、役割分担して作るのが決まっています。結構忙しいんですけど、楽しいから続けられています！

Q：大変なことはありますか？

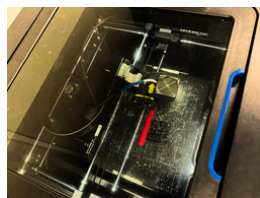
A：毎回上手くいくわけではなくて、時々下の方がはがれてしまったりして、印刷しなおしになると大変ですね。

Q：1回の印刷で結構時間がかかりますよね？

A：そうですね。精度によって印刷時間が変わるんですけど、大きい物だったら24時間以上かかったりする時があるので、上手くいってるか心配になります。

Q：チームの活動でどういうところにやりがいを感じますか？

A：自分が作った機構が正しく動いたときに、『ああ、頑張って良かったな』って思います。
失敗してしまっても、『また次頑張ろう！』と思えます。
まだまだ勉強不足なので、先輩たちに色々聞いて頑張ります！



QRECプレミアムメンバーズ

学生による主体的な活動を支援する、学生サークル認定制度です！教員からのメンタリングや資金援助、施設利用など、様々なサポートが受けられます！

■認定サークル（全9サークル）

二足歩行ロボット製作サークル
【九州大学ヒューマノイドプロジェクト】

「生物系」サークル【Gene Rate】

など



【問合せ先】

九州大学ロボット・ファン/アントレプレナーシップ・センター
伊都キャンパス センター5号館7階 TEL：092-802-6060
MAIL：info@grec.kyushu-u.ac.jp